

この講座は終了いたしました。ご参加ありがとうございました。

平成28年度
第39回

放送

学ぶ喜び、
知る楽しさ。



県民大学

受講
無料

愛媛県では、県民のみなさまに豊かな教養と創造力を培っていただくため、「放送県民大学」を下記の県下3会場で開催します。各会場ごとに計3回、講座に関する映像をご覧いただき、愛媛大学の先生方による講義を受けて、知識を深めていただきます。

受講者募集

中予会場 松山市



愛媛大学 南加記念ホール

◆開講時間／18:00～21:00
◆定員／各150名

※ 駐車場の数が限られております。公共の交通機関、または近隣の有料駐車場をご利用ください。

10/14金

講義内容
新たな教育への挑戦
— 社会共創学の可能性 —

講師
愛媛大学社会共創学部長 西村 勝志

10/28金

講義内容
大規模自然災害の
時代を生きる

講師
愛媛大学防災情報研究センター長
矢田部 龍一

11/18金

講義内容
<やまとだまし>
— 生き方の指針

講師
愛媛大学名誉教授(元法文学部長)
黒木 幹夫

東予会場 新居浜市



愛媛県 総合科学博物館

◆開講時間／13:30～16:30
◆定員／各60名

9/11日

講義内容
万葉第三期の歌人たち

講師
愛媛大学図書館長
愛媛大学法文学部 教授 清水 史

9/25日

講義内容
マイナス金利政策は
何に役立つのか
— 地方金融機関の状況と弊害 —

講師
愛媛大学法文学部 講師 近廣 昌志

12/4日

講義内容
機械と人間の「間」の現象学

講師
愛媛大学法文学部 教授 山本 與志隆

南予会場 西予市



愛媛県 歴史文化博物館

◆開講時間／13:30～16:30
◆定員／各60名

9/10土

講義内容
国連平和維持活動の変遷
～ 停戦監視から文民保護へ～

講師
愛媛大学法文学部 教授 楢林 建司

10/15土

講義内容
江戸時代のことばと文化
～ 江戸時代の人々はどのような暮らしをしていたか～

講師
愛媛大学法文学部 准教授 秋山 英治

11/19土

講義内容
和歌が奏でる恋心
～ 平安時代の恋愛観～

講師
愛媛大学 非常勤講師
聖カタリナ学園高等学校 教諭 田中 千晶

主催：愛媛県生涯学習センター、愛媛大学

後援：愛媛新聞社、NHK松山放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛CATV、FM愛媛

講師の紹介

中予会場



西村 勝志

(にしむら かつし)

宮崎県宮崎市出身。愛媛大学法文学部教授を経て、平成28年4月社会共創学部誕生とともに、その教授となる。専攻は会計学である。

平成28年4月、愛媛大学に新学部(社会共創学部)が誕生した。新学部の教育理念は何であるか、学生はそこで何を学んでどんな能力を修得するのか、どういった社会貢献ができる人材育成像なのか。新学部に対する現代の社会ニーズは何か。愛媛大学の新たな教育への挑戦として称して、新学部の存在意義を明らかにするとともに、コアとなる科目である社会共創学とは、どういった学問なのかについて明らかにしたい。



矢田部 龍一

(やたべ りゅういち)

山口県出身。愛媛大学大学院理工学研究科教授・防災情報研究センター長、専攻は地盤防災工学

東日本大震災の発生を受けて、西日本では南海トラフ巨大地震の発生が、関東では首都直下型地震が危惧されている。また、地震に対して比較的 안전한地域だと思われていた熊本県で直下型地震が発生した。そして、気象災害は全国各地で起こっている。このように、私たちは、いつ大規模自然災害に遭遇しても不思議ではない。本講演では、大規模地震から、そして大規模気象災害から身を守る方法についてともに考えたいと思います。



黒木 幹夫

(くろぎ みきお)

東京都出身。愛媛大学名誉教授。現在は愛媛大学非常勤講師(倫理思想史)。研究領域は、哲学、思想史、宗教学。

〈やまとだまし〉は、通俗的に理解されるようには、何か日本人としての優秀さを示すようなものではない。それはむしろ、生き方にかかわる(智恵)を意味しており、似たようなことばとして「知識」と対比すれば、われわれが生きてゆく上での指針となるべきことが明らかになる。また、そのことを異なった方向から見てゆくために、西洋における「知のあり方」にもふれてゆく。「いかに生きるべきか」について、身近なところから考えてみるのが本講義の趣旨である。

東予会場



清水 史

(しみず ふみと)

神奈川県出身。前副学長(国際連携担当)。現在、特命アンバサダーを兼務。法文学部教授。専攻は日本語学。日中音韻学交渉史及び愛媛の方言を研究。

人にはそれぞれの人生があります。そこには苦しいことも、楽しいこともあるでしょう。人は色々な悩みを抱えながら人生を必死に生きています。これは千三百年前の万葉人だって同じです。万葉集には四千五百十六首の歌が収まっています。彼らの息遣いが聞こえてきます。ここでは、万葉の黄金期と言われる第三期の歌人たち、大伴旅人、山上憶良、山部赤人、高橋虫麻呂らの歌々に耳を傾けて人というものの生き様に触れてみたいと思います。



近 廣 昌 志

(ちかひろ まさし)

広島県呉市出身。愛媛大学法文学部専任講師。研究内容は内生的貨幣供給理論、銀行の預貸率に関する理論。

本講義のポイントは2点ございます。地方銀行の国債保有残高が増大する状況について、実はその要因は「常識」と真逆であること、マイナス金利政策が、地方金融機関を疲弊させるとともにそれらのビジネスモデルを固定化させてしまうことを解説します。その上で、公的債務の増大が続き、いつまでこれが可能なのか、デフォルトする可能性の有無について、私の解説を基にして皆様と探ってまいります。



山本 與志隆

(やまもと よしたか)

滋賀県出身。愛媛大学法文学部教授。専攻は、哲学、倫理学、特に現象学や解釈学等を中心とした現代のドイツ哲学。

現代のロボット、アンドロイド技術の進歩には目を見張るものがある。ヒト型二足歩行ロボットだけでなく、人間とコミュニケーションを行うロボットも注目されている。さらに、外見まで人間そっくりのアンドロイドまで製作されている。こうした現状は人間にとっての明るい未来を想像させる一方で、我々の生活が脅かされるのではないかという不安も掻き立てる。ここで、そうした「機械」と「人間」の間について現象学的に考察してみたい。

南予会場



榎林 建司

(ならばやし たけし)

兵庫県尼崎市出身。京都大学法学部、同大学院法学研究科を経て、1990年、愛媛大学助手。2013年より同教授。専攻は国際法(特にPKOなど)。

平和維持活動(PKO)は、国連の実践のなかで生まれ定着してきたものです。そして、冷戦が終わってから今日まで、PKOは大きく変化してきました。近年に設立されたPKOは、例外なく「文民保護」という任務を負っています。どうしてそのような任務を負うことになったのでしょうか。また、どのようにその任務を遂行しようとしているのでしょうか。動画視聴を交えながら、PKOの歴史と現在を紹介したいと思います。



秋山 英治

(あきやま えいじ)

愛媛県出身。愛媛大学法文学部准教授。専攻は、日本語学。とくに、愛媛の方言を研究。

江戸時代は、印刷技術の発達によって読者層が庶民まで広がり、庶民文芸が栄えた時代です。小説というジャンルでは、江戸前期の読本、黄表紙にはじまり、江戸後期には滑稽本や洒落本、人情本が生まれました。ここでは、江戸時代後期に人気を博した滑稽本である、式亭三馬の『浮世風呂』を中心的にとりあげ、江戸の人々がどのような暮らしをしていたのかをみていきたいと思います。



田中 千晶

(たなか ちあき)

愛媛県出身。聖カタリナ学園高等学校教諭、愛媛大学法文学部非常勤講師。専攻は日本語学。方言話者の意識と、日本語教授法を研究。

華やかな貴族文化が花開いたのが平安時代です。そして貴族文化の中核を担っていたのが「和歌」でした。携帯電話やメールなど、人とつながる便利な道具の無かった時代、自分の思いを伝える唯一の方法が和歌でした。今回の講演では、中世の和歌を題材に、三十一文字に集約された恋心、それを現代風に読み解いていきます。今も昔も変わらない男と女が織りなす恋愛模様を、一緒に垣間見ていきましょう。

- 受講資格／原則として、県内に在住、もしくは勤務の方。 ○受講料／無料
- 申込方法／受講を希望される方は、住所・氏名・年齢・性別・電話番号・希望会場をご記入のうえ、窓口または郵送、FAXでお申込みください。
※ 電子メールによるお申込を希望の方は、愛媛県生涯学習センターのホームページ (<http://www.i-manabi.jp/>) をご覧ください。
- ※ 定員に満たない講座は、開講日当日まで受け付けます。
- 受講の決定／※受講できる場合は、特にご連絡いたしません。

会場	申込先
愛媛大学 南加記念ホール (松山市) 所在地: 愛媛県松山市文京町3番 ※駐車場の数が限られております。 公共の交通機関等をご利用ください。	愛媛県生涯学習センター 〒791-1136 松山市上野町甲650番地 TEL (089) 963-2111 FAX (089) 963-4526 Eメール top@i-manabi.jp ホームページ http://www.i-manabi.jp/
愛媛県総合科学博物館 (新居浜市) 所在地: 愛媛県新居浜市大生院2133-2	
愛媛県歴史文化博物館 (西予市) 所在地: 愛媛県西予市宇和町卯之町4-11-2	